

身にしみたご近所のありがたさ

東松島市 70代 男性

私のうちは3階建てで、2階と3階が住まい、1階が工場です。夜中の地震で、観音開き ※ の戸棚から瀬戸物が全部出てしまって、それを片づけてやれやれといったところで、2回目の地震がきました。

その2回目の地震は揺れがいっそうひどくて、家の中は手がつけられない状態になりました。1階の玄関の引き戸も鍵がかかったまま、ひしゃげてしまってすぐにはあかなくなってしまったのです。

当時、私は腰を痛めていて、寝たり起きたりしていたんですよ。で、それを知っていた近所の人たちがやってきて、全部片づけてくれました。娘がいた3階は特に揺れがひどくて、ほんとうに大変な状況でしたが、近所の人たちが手伝ってくれて、ほんとうに有り難かったです。

※観音開きとは、中央から左右に広がって開く形式の扉のこと。



食料や物資はふだんから備蓄してないと

柏崎市 30代 女性

ちょうどコンビニに停めて、車のサイドブレーキをかけた瞬間に揺れ始めて、そのうちジェットコースターに乗っているような感じになりました。

直後でしたので、運良くコンビニに寄れて水とかおにぎりとかパンとか、当面必要な食料を買うことができました。コンビニは、お酒とかが割れて床が水浸しで、お酒の臭いが混じったすごい臭いがしました。

家に帰ったら既に停電していました。で、「ああ、ポリタンクを買ってくるのを忘れたね」と言って、慌ててまた買いに出たんですけど、「もう全部売り切れました」と言われてしまいました。

もう水もすぐにとまっちゃうような感じでしたから、ペットボトルの空いたのを一生懸命探して、買ってきた水と冷蔵庫にあったお茶とかで、復旧まで足りるのかなとすごく心配しました。

3年前の新潟県中越地震のときは水もガスも止まらなかったもので、「何とかなるだろう」と、容器とかも全然そろえていなかったんですね。それが、ガスも、水道も、電気も全部とまってしまったので、「私たちはどうなるんだろう」という感じでした。

やはり、食料や必要な容器などは、ふだんから備蓄しておかないといけないなと思いました。



生きている間はもう来ないと思った

～前回の経験、生かせず～

柏崎市 50代 男性

私個人としては、数年前の新潟県中越地震の経験はほとんど生きなかったということですね。あのときは、他の人は結構被害があったと言いますが、うちの場合はちょっと不安定に棚の上に置いていた荷物が1個落ちたぐらいだったものですから。

うちのおやじなんかも、「この辺は地盤がいいから」と言うので、私も安心してたんです。それに、中越地震のような大きな地震は、もう自分が生きている間は来ないだろうなんて、変な自信がありましたね。

それが何年もしないうちにこんな大きな地震が来るなんて夢にも思いませんでした。



人に頼る避難より自主避難を！

徳島市 50代 男性 消防団員

災害対応にあたっていると、避難する側の人の心構えが大事だなと思います。「犬を飼っているので、犬を連れていってもいいか」とか、「寝る布団はあるのか」、「食うものはあるか」とか、いろんなことを言う人もいました。

市営住宅の人たちを避難させに行ったときには、消防団が車で送り迎えしてくれるというような考えでいるから、なかなか自分から動かないんですよ。みんな乗用車を持っているんだから、各戸で誘い合って乗っていったらいいのに、悲しいかな、それができない。何度も車で往復しなければならず、時間もかかって大変でした。

それ以降、台風時などの出水については早目の避難ということで、住民の皆さん方には、早い形で自主的に避難をしてくださいというようなマニュアルづくりをしています。

これからは住民の皆さんが自主的に動く自主防災会のようなシステムをこしらえておく必要があると思いますね。



水圧でドアが開かない

～地下室のドアはいつでも開けておく～

杉並区 60代 女性

うちもギリギリだったんですが、坂が窪地みたいになっているところの1階の方たちは、一晩腰までつかりっぱなしですから、もう悲劇的でしたね。床下、床上浸水でも、2階のある方は2階に行きました。

ご近所では、楽器の練習をしていたご主人が知らないうちに地下室に閉じ込められてしまいました。奥さんが外から押しても全然だめで、しょうがないからドアを壊すしかないとかやっているうちにも、水がどんどん増えてきてしまったんです。

水圧がすごくて、全然動けない。必死になってもがいているうちに、水が引いてきて助かったのですが、結局ドアのちょうつがいを壊したんです。道に水がたまって、救急車も入ってこれないから大騒ぎでした。

その方はいつも防音のために地下室のドアを閉めていたのですが、今回そういう経験をして、いつもドアは開けておかなきゃいけないんだということがわかったようです。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

—簡単な手順を紹介します—

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ

その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする

※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集
※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省